

EXTRA

オートメーションデータを 停止状態で精密に書き込みたい

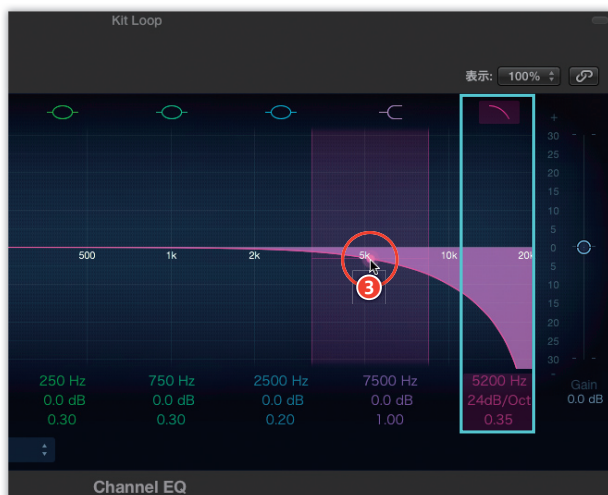
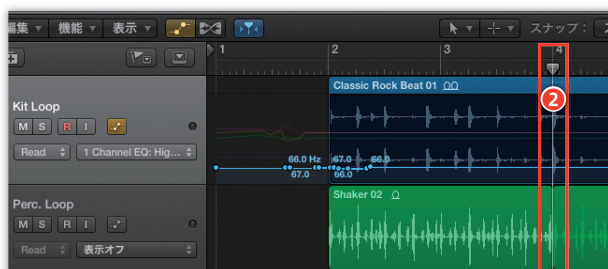
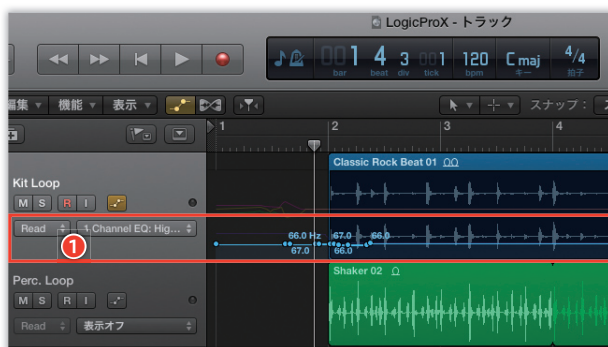
通常、オートメーションデータはプロジェクトを再生しながらフェーダーやつまみを動かしてリアルタイムに書き込みますが、プロジェクトを停止した状態で、精密な値を書き込むこともできます。この際、追加したノードを左側に位置するノードとつないでオートメーションカーブを作成することも、つながずに独立したオートメーションとすることもできます。

HowTo フェーダーやつまみの状態を1つずつ書き込むには

メインウィンドウのトラック領域に書き込みたいオートメーション（画面例ではチャンネルEQのハイカット周波数）を表示し、オートメーションモードをReadにしておきます①。

書き込む位置に再生ヘッドを移動し②、書き込みたい値にフェーダーやつまみを設定します③。

複数のトラックを選択して、1回の操作で各トラックのフェーダーやつまみの状態を書き込むこともできます。この場合、選択したトラックそれぞれに作成したいオートメーションを表示しておきます。



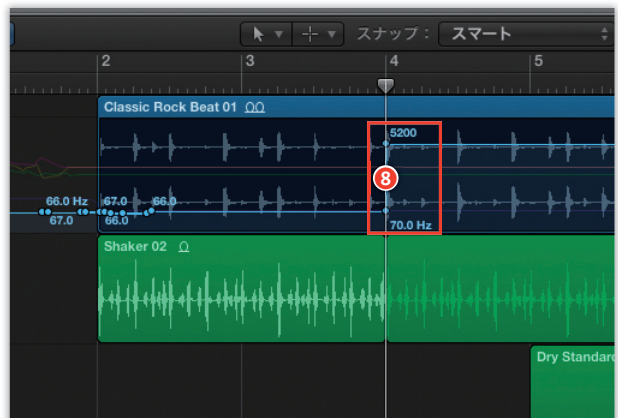
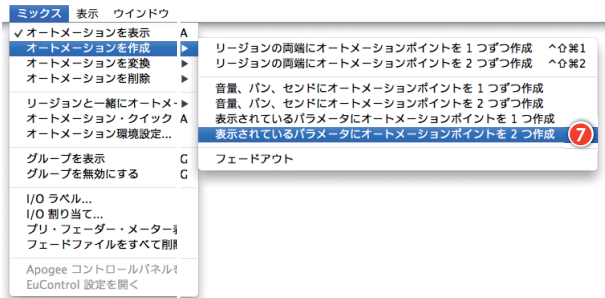
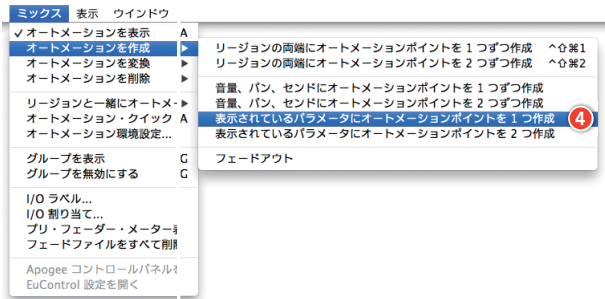
メインメニューからミックス→オートメーション
を作成→表示されているパラメータにオートメー
ションポイントを1つ作成④を選択すると、再生ヘッ
ド位置にノードが作成され⑤、左側に位置するノ
ードと結ばれます⑥。

書き込む位置より左側にノードがない場合は、書き込
む値と同じノードをプロジェクトの先頭に作成します。

差分PDFの制作時点では、オートメーションの作成と
同時にトラック領域のオートメーション表示が別のパ
ラメータになる場合がありますが、ノードの作成は最初に表示
したパラメータに対して行われています。

メインメニューからミックス→オートメーション
を作成→表示されているパラメータにオートメー
ションポイントを2つ作成⑦を選択すると、再生ヘッ
ド位置にノードが2つ作成され、左側のノードとは
独立して急速に変化するようなオートメーションに
なります⑧。

書き込んだ位置よりも右側にノードがある場合には、
ノードが結ばれ、そこまでのオートメーションカーブ
が作成されます。



HowTo フェーダー、パン、センドの状態を同時に書き込むには

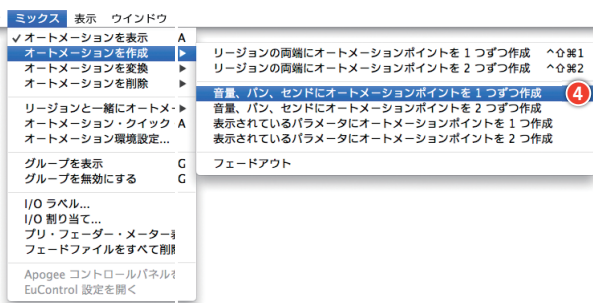
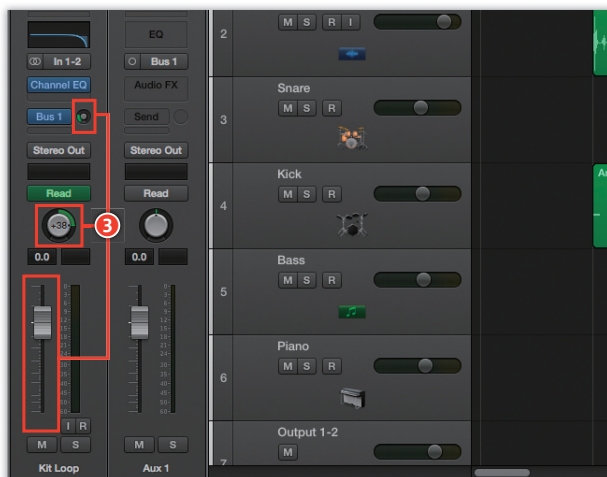
フェーダー（チャンネルの音量）、パン、センドの3つのパラメータの状態を同時に書き込む場合には、トラック領域にオートメーションを表示しておく必要はありません。

オートメーションモードをReadにし①、書き込む位置に再生ヘッドを移動②。書き込みたいチャンネルのフェーダー、パン、センドのつまみを設定しておきます③。

必ずしもフェーダー、パン、センドの3つとも設定する必要はありませんが、ノードは必ず3つのパラメータについて作成されます。

複数のトラックを選択して、1回の操作で各トラックのフェーダー、パン、センドの状態を書き込むこともできます。選択したトラックそれぞれにオートメーションを表示しておく必要はありません。

メインメニューからミックス→オートメーションを作成→音量、パン、センドにオートメーションポイントを1つずつ作成④を選択します。



HINT & TIPS フェードアウトのエンディングを作る超簡単な方法

エンディングなどで、プロジェクト全体をフェードアウトしたい場合には、コマンドで作成できます。

フェードアウトを設定したい範囲にルーラをセットし①、メインメニューからミックス→オートメーションを作成→フェードアウトを選択します。これだけの操作で簡単にマスターチャンネルにフェードアウトが設定されます②。



すると、再生ヘッド位置に3つのパラメータのノードが1つずつ作成され⑤、左側のノードと結ばれます⑥。

ここでは、結果がわかりやすいように、トラック領域にオートメーションを表示しています。

メインメニューからミックス→オートメーションを作成→音量、パン、センドにオートメーションポイントを2つずつ作成⑦を選択すると、再生ヘッド位置に3つのパラメータのノードが2つずつ作成され、左側のノードとは独立して急速に変化するようにオートメーションになります⑧。

